

## 講演

## 国際歯科研究学会日本部会（JADR）から見た 我が国歯学研究の現状と課題

山崎 和久

●抄 録●

国際歯科研究学会日本部会（JADR）は、世界最大の歯学研究の学会であるIADRの中で長い間アメリカに次ぐ会員数を誇ってきた。その数だけでなく、研究の質という点においても日本の研究は幅広い分野において世界をリードしてきた。しかし、今その状況に変化が起こりつつある。JADRの会員数は減少傾向にあり、おそらく来年には中国に2位の座を取って代わられることは確実である。研究の質という点においても激しく追い上げられているところか、特定の分野においては追い抜かれ、差を広げられつつある。2013年に日本学術会議歯学委員会がまとめた報告書（我が国における歯科医学の現状と国際比較2013）では「我が国の歯学界では、欧米に比べて歯学研究のできる歯科医師（医学における Physician Scientist）が多数育成され、歯学以外からの優れた研究者の参入も加えて、歯科医学研究を展開している。その結果、我が国の歯科医学界は広いライフサイエンスやマテリアルサイエンスの知識・技術を基盤とした先端的歯科医学を構築するのに有利な環境を保持している。このような背景から、我が国の歯科医学の「研究水準」は世界的に見て高いと考えられている」と記載されている。果たして現在もそうした認識が通用するのであろうか？我々を取り巻く研究環境は大きく変わってきている。本講演ではJADRの役員という立場から我が国歯学研究の現状と課題を考えてみたい。

キーワード：国際歯科研究学会、国際歯科研究学会日本部会、歯学研究

### I. 国際歯科研究学会（International Association for Dental Research ; IADR）<sup>1)</sup> について

IADRは世界で最も権威のある歯学分野の学会である。1919年にDr. W. Giesにより米国・ニューヨークで設立され、第1回年次総会は1922年にシカゴで開催された。現在、年1回総会・学術大会を開催している

が、隔年で北米以外の地で開催している。我が国では1980年（第58回大阪）と2001年（第79回千葉）の2回開催している。

毎年の総会において、それぞれの研究領域で優れた業績を挙げた研究者にはDistinguished Scientist Awardを授与し、若手研究者の研究発表に対しては元IADR会長Edward H. Hattonの名を冠したHatton Awardを授与するほか、各研究グループで独自に賞を設けて優れた研究・研究者を顕彰している。

公式学会誌であるJournal of Dental Researchは1918年に発刊された。歯学研究分野のトップジャーナルであり、2017年のインパクトファクターは5.38で、Dentistry, Oral Surgery and Medicineカテゴリーでトップに位置する。



※冬期学会講師

（やまざき・かずひさ）  
国際歯科研究学会日本部会（JADR）前会長  
新潟大学大学院 歯学総合研究科  
口腔保健学分野 教授

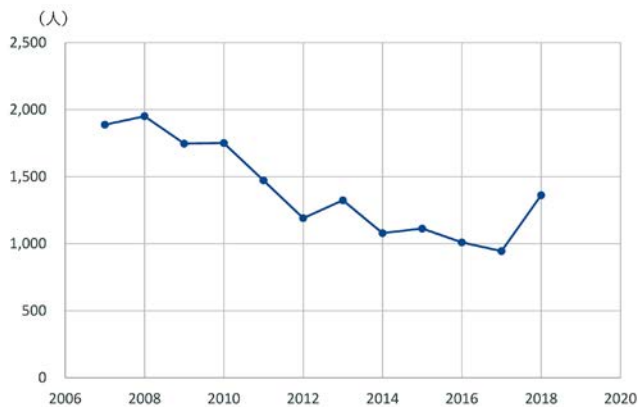


図1 JADR会員数の年次推移

Fig.1 Annual changes of the number of JADR membership

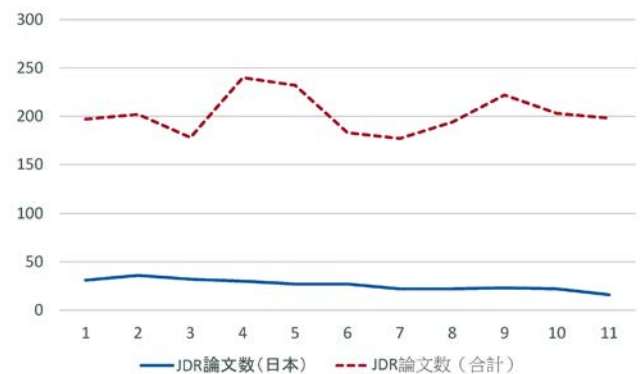


図2 Journal of Dental Research掲載論文数と日本からの論文数の年次推移

Fig.2 Annual changes in the number of research papers published in the Journal of Dental Research from Japan

## II. 国際歯科研究学会日本部会 (Japanese Association for Dental Research ; JADR)<sup>2)</sup> について

JADRは高橋新次郎東京医科歯科大学教授を会長として1954年に創立された。創立時の会員数は16名であった。同じ年に第1回JADR日本部会を開催している。その後順調に会員数を伸ばし、IADRと国内学会を結ぶ懸け橋として長年に渡り活動してきた。2018年現在、米国について世界第2位の規模を誇っている。IADRの日本部会という性格上、国際的な活動が重要なミッションであることから第60回大会以降、学術大会での発表はすべて英語で行っている。

これまでにJADRからはIADRの会長に3名の先生方就任している（作田 守名誉教授（大阪大学）、黒田敬之名誉教授（東京医科歯科大学）、安孫子宣光名誉教授（日本大学））。IADRアジア太平洋地域学会が開催される年を除いて年1回の学術大会を開催している。次世代の歯学研究者の育成にも力を入れており、学部学生の研究発表に対してはJohnson & Johnson社のサポートによりJoseph Lister Awardを設けて、優れた研究発表を顕彰している。また、若手研究者による優れた研究発表にはJADR学術奨励賞を授与している。また、総会でのHatton Award Competitionに出場する若手研究者の国内予選を行っている。記録に残っている範囲ではこれまでにIADR本大会での入賞者（1位、2位）は7名を数える。

## III. JADRの現状と課題

米国に次ぐ規模と研究力で、JADRはIADRの中で存在感を示してきたが、創立60年以上を経て、様々な課題が浮き彫りになってきている。

現在、会員数は約1,300名で、世界第2位の位置にあるが、頭打ちどころか減少傾向にある（図1）。IADRにおける最も権威ある賞の1つである、Hatton Award Competitionは各divisionの会員数に応じて本選参加枠が決められる。JADRは一昨年まで4名の枠があったが、昨年は会員数が足りず3名になってしまった。一方、IADRのアジア・太平洋連合の会員数は大きく増加し、北米部会に迫る勢いである。特に中国の会員数増加は著しく、数年のうちに日本を抜いてアメリカに次いで第2位になることは間違いない。中国は研究者の人口と資金力に物を言わせ世界における科学技術分野での存在感を高めている。今や日本はほとんどの分野で中国の後塵を拝しており、いずれオーラルサイエンスにおいてもそうになってしまうのではないかと危惧する。例えば口腔細菌領域では中国は急速にその論文数を増加させ、2010年を境に日本を追い抜き、その差を広げている<sup>3)</sup>（図2）。

会員数の減少は活動にも大きな影響を与える重大な問題である。JADRの財政基盤は会員各位からの会費に大きく（というかほとんどすべて）依存している。会員数は総会の開催地にも依存しているため、魅力ある観光地で開催される場合は増加する傾向にあり、そ

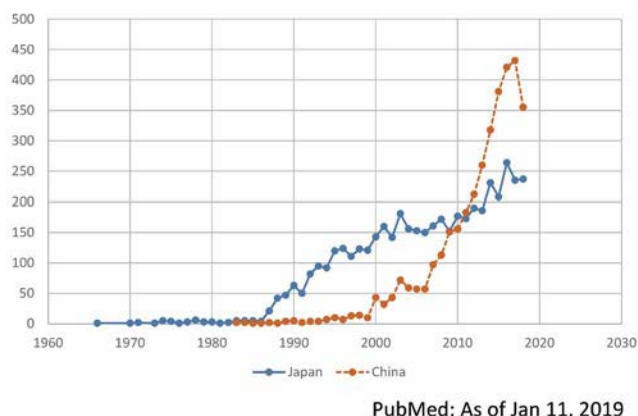


図3 日本と中国における口腔細菌領域の論文数の年次推移  
Fig. 3 Annual changes of the number of research papers in the field of oral microbiology in Japan and China

うでない場所では減少する傾向にある。従って、国内で開催するJADR学術大会をどんなに魅力的なものにしたとしても会員数の増加に結び付かないのである。IADRの評議員会でも会員数の減少はたびたび議題に上がるが、効果的な提案はなかなか出てこない。

#### IV. 我が国における歯学研究の現状と展望

歯科医師過剰に対する政府の対応に加えて国立大学の法人化に伴い、歯学部・歯科大学を取り巻く現状は

厳しい。歯学部学生定員の削減は学部の規模縮小、すなわち教員定員の減少につながり、大学院進学者の減少と相まって、研究力の低下を招いていると言わざるを得ない。

図3はJournal of Dental Researchに掲載された我が国からの論文数であるが、経年的に減少傾向にある。このことは筆者が専門とする歯周病学の専門誌であるJournal of Periodontal Researchでも同様である。さらに、科学研究費補助金の制度改革により分野統廃合が行われ、特に大型研究費は医学領域の中で審査を受けることになり、採択件数が激減している。実はこうした状況の中でも歯学研究の重要性は低下するどころか、いよいよ高くなっている。今、医学領域で最も熱いテーマは、腸や口腔の常在細菌叢と疾患との関わりともいわれている。口腔細菌研究は我が国が世界に冠たる領域の一つである。これを突破口に研究力をさらに高め、人類の健康に貢献できることを願う。

#### 参考資料

- 1) <https://www.iadr.org/>
- 2) <http://jadr.umin.jp/index.html>
- 3) <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=oral+microbiology+Japan>, <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=oral+microbiology+China>

## Current Trends and Issues of Dental Research in Japan: From a Stand Point of the Japanese Association for Dental Research

Kazuhisa YAMAZAKI, D.D.S., Ph.D.

*Professor, Division of Dental Science for Health Promotion, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

Japanese Association for Dental Research (JADR) has been the second largest dental research society among the divisions and sections of International Association for Dental Research (IADR). Japan has been a leader in the dental research society not only quantitatively but also qualitatively. However, the situation has changed. The number of membership of JADR has gradually declined and our position will be taken over by China very near future. The quality of the research in China has improved dramatically and rapidly and is catching up that of Japan. In some research area, China has already taken over Japan. According to the report by Science Council of Japan, Japan has trained many dentists who are engaging dental research. Those dentists together with many outstanding scientists from other scientific area are conducting dental medicine research. Consequently, Japan has retained advantageous environment to conduct cutting-edge dental science based on the wide range of life sciences and material sciences. Thus, it is considered that the research standards of dental science in Japan are high on the world. However, is such recognition still applicable? We have to recognize that the research environment surrounding us is changing rapidly. I would like to discuss about the current situation and problems in the dental research in Japan.

**Key words** : International Association for Dental Research, Japanese Association for Dental Research, Dental Sciences